

## 洞岳沢～ビール祭り～

【報告者】S田・O森

【日時】2017年7月29日 【天候】晴れ

【参加者】T・K・K崎・S上・Y中・Dr・F谷・O野・湯T・T橋・E入・M月さん（会員外）・S田・O森

7:15 日之影キャンプ村出発→8:10 入渓→12:00 遡行終了→13:10 入渓地点

### 《 報 告 》

#### (S田)

今回は移動手段の事情から、急きょ「くわずる谷右俣」を断念し総勢13名での遡行となった。6:00 起床。前夜の具材を使って具沢山の味噌汁をいただき、朝食を済ませます。記念撮影を行い15分遅れの7:15 キャンプ村を出発。公民館（猪鹿庵）横の空き地に駐車し300Mほど下流へ下った水神を祭った祠の先から入渓する。大崩山系は300万年前までに太平洋プレートとフィリピン海プレートの移動によるカルデラ爆発が原因で隆起した場所の一つだそうで、ここへ来ると毎度のことながら自然のスケールの大きさに圧倒される。取り付きの8m滝、続く4m滝とザイルを出して直登する。続く3m滝は両側に翼壁を持ち、直登も難しいため左へ巻く。資料によると「左を小さく巻いて滝頭へ出る」とあるが、滝頭へのトラバースは困難と判断し、やはり左に大きく巻いた。標高にして100m 遡行した時点で時刻は10:30、やや足を速めて遡行するが、次第に水流も減り前半に比べると迫力が低下してきたところで時間切れとなる。12:00 標高750m 地点で遡行終了とし、右上して洞岳の登山道へ出た。13:10 下山し日之影温泉にて入浴後解散した。

今回たどり着けなかったさらに上流にも、へつりや難易度の高い滝も存在するようで時間をかけて再挑戦してみたい。

#### (O森)

仕事や家庭の事情により、ここ数年は、会山行から足が遠のいていたところであるが、この春から月一程度ではあるが各種山行に参加出来るようになってきた。今回、個人的には約3年振りとなる沢登りで、ビール祭り当日の祝子川ゴルジュ遡行から続く翌日の洞岳谷遡行に参加させてもらった。こうして山行報告をさせていただくのも5～6年振りである。乱筆乱文を予めお断りしておきたい。

さて、山行報告の前に今年のビール祭りについても触れておきたい。

T橋さんが事前のメールで触れていたとおり、前夜祭で飲み過ぎた挙句の用水路転

落事件や高巻きを失敗した末の決死のヘッデン脱出行、夕暮れ時のキャンプ場対岸に突如出現した未知の裸族などなど、私を知る限りでもビール祭りにおけるハプニングは枚挙に暇がない。参加表明以前から、私の中では今年のビール祭りでも何かが起きるのでは、という確信めいた予感があったが、今年のそれは事前にアナウンスされたT橋さんプレゼントのDr サプライズ還暦祝いであった。

会歴約 40 年、会員最古参の一人であり、ピナクルの生き字引ともいえる Dr。藪漕ぎや沢におけるスパルタ遡行指導など、Dr の薫陶を受けて岳人として育った(?) 会員は数知れない。そんな Dr が 8 月 3 日に還暦を迎えるということで、祝賀ムードに包まれた参加メンバーのテンションは否が上にも高まる。宴も酣の中、T橋さんの仕切りで Dr サプライズ還暦祝いは幕を開けた。

Dr にとっては、戦友とも言える石丸さん、T橋さんのご両人が用意してくれた還暦祝いウェア(真紅の T シャツ、短パン、ソックス、ピエロ帽)に身を包んだ Dr は、照れ隠しもあるのだろう、クールを装ってはいたが、滲み出る嬉しさは隠しようもない。

ピナクル会員全員(残念ながら参加が叶わなかった会員含む)からのお祝いを受けた Dr のお礼の言葉や、これまでの記憶に残る山行や会活動を振り返る話は、山を愛する後進としては大いに刺激になり、心に響くものがあった。私もこれから山を長く続けていくため、これまで以上に体力維持に努め、そして何よりも家族を大切にしていかなば、と心中固く誓ったところである。

Dr、還暦本当におめでとうございます。バイタリティに溢れ、若々しく格好いい Dr の背中には、我々後進が目指すべき標です。これからもご指導ご鞭撻の程、よろしく願いいたします!



(追伸)

今年のビール祭りのリーダー兼計画立案者である T・Kさんをはじめ、食担、買出し担当者の皆様方には、本当にお世話になりました。会場の雰囲気も用意していただいた料理も最高でした。殆ど何のお手伝いも出来ず申し訳ありません。このお礼は何れどこかでお返ししたいと思います。有難うございました



た。

さて、本題の洞岳谷遡行である。  
洞岳谷の入渓ポイントは、五ヶ瀬川に沿って走る県道237号線から役場付近で分岐する県道6号線を傾山登山口に向かって北上したところにある見立簡易郵便局から南に約300m程度にある。



(駐車場所)

県道6号線沿いにある民宿河鹿荘から約100m北上した猪鹿庵(無人?)の駐車場スペース。MAX3台まで駐車可能。50m先の右側にも駐車スペース有り。



(エントリーポイント)

駐車場所から300mほど下った場所のガードレールを乗り越え、川の右岸からエントリー。洞岳谷は本流の左岸から入渓するため、初っ端から渡渉を強いられる。水量やメンバーの力量により渡渉ライン設定必須。



(入渓ポイント)

渡渉後はいきなりの8m斜滝。流芯突破は困難なため、右(左岸)から抜けるのが無難。

天候次第で溪相は一変するであろうが、遡行の難易度は沢源の評価どおり初級が妥当であろう。下流部の小滝や斜瀑の直登は難易度も低く快適そのものであり、高巻きからの懸垂降下も1か所のみ。高巻き後も快適で楽しい小滝が連続する。標高700mで分かれる右俣を遡行し、標高750m付近で遡行終了。左岸を並行して走る踏み跡を辿

り下山した。

詳述すると今後洞岳谷の廻行を企画する面々にとって面白さを奪うことになり兼ねないので割愛するが、左岸に沿って鉱道（ところによって踏み跡程度、大きく崩壊した場所もあり）が走っているため、道迷いを心配する必要もない。初心者にとっても安心な沢であった。



(高巻きポイント)

3 m 滝が連続するポイントでは左(右岸)をまとめて巻いた。滝頭に出るため、約 12m を懸垂降下。